

令和2年度 嘉徳小学校 学校評価報告書

【学校の教育目標】
 確かな学力を身につけ、美しい心を持ち、
 活力ある子どもの育成

【本年度の重点目標】
 ○「進んで学び・考える子ども」を育てる。
 ○「挨拶し、たくましい子ども」を育てる。

4：大変よい 3：よい 2：努力を要する 1：すぐに改善

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
確かな学力を身につけた子どもの育成	自ら学ぶ子ども	【自分の考えを適切に表現する】 自分の考えを適切に発表することができる 〈結果〉82% ・全学年での「かく活動」の取組をし、表現する仕方を系統的に指導した。 ⇒自分の考えを記号や言葉でかくことができる児童が徐々に増えてきている。しかし、伝えることは十分ではない。	2.9 (3.1)	○日本社会においては自分の考えや意見をまとめて発表する機会が多い中、国際化に対応するためにも学校でしっかり取り組まれていることが、大変素晴らしい事です。 ○確かな学力を子どもたちに身に付けさせるため、学力の中核と考えられる「かく活動」に真正面から取り組まれていることに敬意を表します。 ・一人一人の発表をほめて、更にどういうふうに言ったら他の人に伝わりやすいか指導を細やかに続けていくことが大切だと思います。 ●保護者アンケートの7番の結果が他のアンケート結果の中でも「あまり出来ない。」のパーセンテージが大きいようです。「かく活動」と共に「本を読む活動」を活発にして表現力を養うことも大切かと。それと人前で発表する場を出来るだけ設けることが出来るといいのでは。	◇ 児童が「かきたい」と思うような体験等を通して、「目的・観点・方法」を明確にした「かく活動」と表現活動の工夫を図る。
		【わかる授業づくり(個に応じた指導)】 算数の学期末テスト達成率 (低学年90%、中学年85%、高学年75%以上) 〈結果〉各学年目標を達成 ・算数科の重要単元の絞り込みと、指導方法工夫 夫改善教員を中心とする学習形態の工夫(習熟度別指導など)を行った。 ・重要単元の結果85点未満の児童に対しては、補充を行うなど学力の確実な定着を図る取組を行った。 ⇒各学年目標を達成することができたが、高学年になるほど難しい。	2.9 (3.0)	○全学年において、目標を到達されていることは、一定の評価をすることであります。先生と子どもたちとの努力の成果ではないでしょうか。 ○それぞれの学年で目標を設定して、指導されている事は、子どもたちにとって心強いことだと思います。 ○学校総体として、全職員で指導して行こうとする教える側の意気込みはきっと子どもたちに伝わると思います。学年が上がるにつれて、目標達成が難しいのは学力達成の流れだと思います。 ・それぞれの児童の実態を把握し、更なる学力の定着に向けてわかる授業、指導のあり方の工夫を今後ともよろしくお願いします。 ●特別に支援が必要な児童への指導の工夫が必要だと思います。	◇ 全国学力・学習状況調査、NRT検査結果等の分析を行い、重点学年及び単元の絞り込みをし、習熟度分割授業などの確実な実施を行い、学力の向上を目指す。
		【読書活動の推進】 低：80冊、中：3,000p、高：5,000p以上 〈結果〉全校平均62冊(※2学期末) ・「読書祭り」では各学級の読書の記録を掲示し、意欲付けを図った。 ⇒各学年の平均は目標を達成しているが、個別には読書習慣の二極化も見られる。	3.0 (3.3)	○子どもたちは、よく本を読んでいます。精読多読という読み方を工夫されていると思います。極端に言えば、図書館に行って本を見る、手に取る事だけでお大事だと思います。二極化解消は体験から。 ○図書館前の掲示物、よく工夫されていて楽しいです。 ・今後も一人でも多くの児童が関心をもてるように、幅広いジャンルの本を紹介してほしい ●読書スタンプカードなどの工夫をし、目標数を決めて達成したら、さらに頑張るように「〇〇賞」など、子どもの読書を推進するような方法導入されてはどうでしょうか。	◇ 図書館等で本を読みたくなるような本の紹介や仕組みを工夫するなどして、子どもの本への関心を高める。 ◇ 家庭への啓発「うちどく」等を通して家庭との連携、「読み聞かせ」の活動を通して地域との連携をし、読書の習慣を身につけさせる。
		【家庭学習の習慣化】 家庭学習：(10分×学年+10分)以上 ※土日：20分以上(含10分間読書) 〈結果〉平日：94% 土日：85% ・具体例を「昇降口に掲示」や「通信」等で紹介することを通して、家庭学習の啓発を行った。 ⇒平日の目標の時間を達成できている児童は増えたが、土日は8割強にとどまっている。	3.2 (3.3)	○家庭学習が定着している事は、先生方と家庭との連携がスムーズに取られているからだと思います。 ○よくできています。そのことを、子どもを通して通信等で伝えているのはとても有効だと思います。 ○数字を見ると、ほとんどの児童が習慣化に成功しているように見えます。 ・家庭学習の習慣を定着させるために、継続して保護者と連携して指導して行って下さい。	◇ 家庭学習の内容に個人差が見られるため、家庭との連携をさらに深め、自学の充実を図る。また、土曜未来塾への参加を推奨する。 ◇ 学校内においても、家庭学習に関わる行事等の企画や承認する場を設けるなど、家庭学習を主体的に行うことができる工夫を図る。
		総合所見		「かく活動」と連動させた思考を活性化するワークシート等の工夫と終末の学習の振り返り主体的に活動することができるようにするための、さらなる家庭との連携の強化	

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
美しい心を持つ子どもの育成	思いやりのある子ども	【良好な人間関係づくり(不登校防止)】 友だちと仲良くし、学校生活を楽しむ 〈結果〉「学校が楽しい」:94% ・「福岡アクション3」に基づき「マンツーマン方式」による、早期発見・早期対応に努めた。 ⇒ほとんどの児童が友だちと仲良く過ごし、学校生活を送ることができている。 不登校児童は出ていないが不登校兆候1名	3.4 (3.7)	○「学校が楽しい」が94%は、すばらしい結果だと思います。ただし、気になる子どもには、早期の対応をしていただきたい。 ○学校が楽しいの多いのは、とても安心できます。 ○コロナ禍にあって、いろいろな制限のある中で児童が楽しく学校生活を送られたのは何よりです。 ・何よりです。100%に出来るだけ近づくように、今後とも引き続きご指導よろしく願いいたします。 ●中学校へ向けて、不登校兆候を生まない取組の継続が必要だと考えます。	◇ 月1回のアンケートや調査の実施を通して、児童一人一人の状況を丁寧に見取るとともに、自己の成長を自覚させる取組の充実を図っていく。 ◇ 保護者や関係機関との連携を密にしながら、個々への対応の充実を図る。
		【規範意識の育成】 ルールを守って、学校生活を送る 〈結果〉89% ・「学校(嘉穂小)のきまり」を各教室に提示し、校内放送等で日常的な意識化を図った。 ・児童会が中心になり、廊下の歩行の仕方の点検を行った。 ⇒大きなトラブルや生活指導は少ない。	3.1 (3.3)	○校内に児童による啓蒙ポスターなどがあり、全員でルールを守る事への意識が感じられる。 ○ルールを守ってトラブルも少ないのは大変素晴らしいことです。 ○日常的な取組の成果がでていると思う。校内の掲示物もわかりやすくて良いです。 ●低学年の時から、なぜきまりがあり、なぜ守らなければならないのかをわかりやすく徹底して話すことが大事ではないでしょうか。	◇ 引き続き、「学校のきまり」について用をし、委員会活動とも連携をし、廊下に掲示物等で啓発を行う。また、決まりを守ることで学校生活がよりよくなる実感を味わわせ、次へつなげていく。 ◇ 道徳科や学級活動との関連を図り、児童の社会性を伸ばす。
		【言語環境づくり】 丁寧な言葉遣い、やさしい言葉かけができる 〈結果〉89% ・道徳科や学級活動との関連を図りながら、適切な言葉遣い(ふわふわ言葉・ちくちく言葉等)について日常的に指導を行った。 ⇒困っている友だちや下級生に対して、やさしい言葉かけをしている児童の姿が見られた。しかしその一方で、依然、人を傷つける言葉を使ってしまう児童も見られる。	3.1 (3.0)	○指導がしっかりとされていると思います。子どもが子どもを導くのは、難しいし、気をつけないといけないなど、こまめに指導されているのではないのでしょうか。 ○やさしい言葉かけができる児童が育っていることは、日常的な常識づけの成果があらわれていると思う。一方、人を傷つけることばを発する児童の生活をとりまく環境もさまざまに指導することの難しさもあると思う。 ・家庭教育がウエイトを占めているので、家庭と学校との連携がより一層望まれる。 ●子ども達が、普段どんな言葉遣いで友達と過ごしているのかと言うのは、先生方が全て把握するのは難しいと思います。それでも、89%の結果はよい結果だと思いますが、先生の目が届かない所は、他の学校関係者の皆様やバスの運転手、保護者、地域の皆様と連携して見ていく必要があるのでは。	◇ 児童の実態を把握し、言葉の重要性について職員間の共通理解を深め、日常的な指導の継続・徹底を図る。同時に、保護者への啓発などにも取り組み、連携を図る。 ◇ 道徳科・学級活動との関連を更に図るとともに、集団作りの取組と関連させながら、実践化を促す取組の工夫を図る。
		【挨拶の励行】 すすんで挨拶をする 〈結果〉85% ・児童会活動・PTA活動でも挨拶運動を行い、児童・学校・保護者で取組を行った。 ⇒挨拶運動の場では挨拶をする児童が多いが、来校者など、それ以外の場面ではできなかったり声が小さかったりする等の実態がある。	2.6 (2.9)	○毎朝、児童達とあいさつを交わすが、立ち止まってきちんとあいさつをしている児童が多数いる。すばらしい。 ・日頃からの家庭でのしつけが重要であるので、家庭との連携を密に。 ・学校・子どもの頑張りりとPTAや地域の温かい支援・協力がとても大きい。 ・挨拶は、大事です。 ●児童が家庭や学校以外で人と接する機会が少なくなっているため、あいさつを行う難しい面があると思う。 ●保護者アンケートでも他のアンケートで比べると、「あまりできない」のパーセンテージが大きい。コロナ禍で来校者と会う機会も少なくなり、挨拶をする機会がなくなったのでは。出来る限りの取組を行い、挨拶をすることを忘れさせないようにしてください。	◇ 日常的に進んで挨拶が交わされるように、児童会活動や地域・家庭とも連携をし、児童の主体性を高める取組となるような工夫を行う。
		総合所見	学力向上を図る学習の基盤づくりや児童一人一人が大切にされる集団づくり 中学校区としての取組の充実に向けた嘉穂中学校との連携		

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
活力ある子どもの育成	たくましい子ども	【鍛ほめの取組】 非認知能力の向上 〈結果〉 最後まであきらめずやり遂げている 93% ・算数科重要単元における「振り返りカード」の取組を実施した。 ⇒問題に対してあきらめずに取り組む姿を見ることができた。	2.7 (3.0)	○「振り返りカード」の取組が良かったのではないかと思います。 ○頑張りの見える化は、子どもたちにとって有効でしょう。「振り返る」は、とても良いキーワードの取組です。 ・あきらめずに取組んだ成果を確信できると更にその姿が定着すると思う。 ●教科活動についても、最後まであきらめずにやりきるという意思の強さや集中力というのは、体力、睡眠や食事などの生活習慣とも関係し、残りの7%の子のチェックが必要	◇目指す子ども像へ向けて、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。	
		【体力の向上】 定期的なコーディネーショントレーニングの実施 体力アップシート：2000点 〈結果〉 体力アップシート2000点： 91% (※2学期末) ・全学年が体育の時間にコーディネーショントレーニングに取り組み、体力の向上を図った(低:月1回高:学期2回)。毎月25日の「にこにこの日」にも全校一斉のトレーニングタイムを設定した。 ・体力アップシートを活用し、外遊びを奨励した。 ⇒休み時間等に外で遊ぶ児童が多い。	3.0 (3.3)	○いろいろ工夫された取組がなされていて感心します。子どもたちに変化が見られるのはよいことです。 ○外遊びで体力向上やストレス発散につながり、児童を生き生きしている姿を見ることができました。 ・とにかく、外で遊ぶ！できるだけ。若い先生方も子ども達と思いきり外で遊んであげてください。 ・楽しく、体力アップが取り組まれているので、継続して取り組んでいただきたい。 ●最近の子供達は、体力が低いのでは。	◇「にこにこの日」を継続し、体育主任を中心に、組織的・計画的に推進していく。 ◇ コーディネーショントレーニングのさらなる日常化を進めるため体育科へ位置づけるとともに、子どもと教師と一緒に体を動かす機会を工夫する。	
		【基本的生活習慣の定着】 「早寝・早起き・朝ご飯、少メディア」の定着 〈結果〉 毎朝、朝食を食べている児童 95% 早寝・早起きしている児童 81% ・2学期と3学期の始めに、保護者と連携して「早寝・早起き・朝ご飯・少メディア」の取組を実施した。 ⇒子どもと一緒に目標設定を保護者にも啓発	2.9 (3.2)	○保護者の取組に敬服するとともに、感謝です。保護者の学校への信頼があついでしょ。○長い休校期間があったりして生活のリズムが乱れがちだったと思うが、保護者と一緒に取り組まれたことが学校再開時に児童がスムーズに学校生活に戻れたことにつながっていると思う。 ・これは、保護者の協力が必要、子ども達もそうですが保護者の意識付けが必要 ●基本的生活習慣の定着は、家庭教育の中でしっかりやるべきだが、ゲーム、テレビ、スマホ等などは、保護者と連携して子どもへの学習も取り入れながら進めていくことが重要	◇ SNS利用の子ども達の増加に伴い、今後もメディア教育を推進し、自己抑制力やモラルの向上を図る。	
		【清掃活動】 「人のために黙って清掃」の定着 〈結果〉 33% ・掃除後の班の反省時間を設けて、振り返り活動を行っている。 ⇒黙って行うことがまだ不十分	2.2 (2.5)	・清潔の習慣をつけるなどの清掃生活の意義を理解させ、互いに気持ちよく過ごせるように根気強く指導をお願いします。 ・黙ってというのは難しいとは思いますが根気強くご指導を ●なぜ、掃除は黙ってやらなければならないのかをよく理解していないから、この結果なのかと思われる。	◇ 清掃のよさや大切さを再確認させ、承認の場の工夫等を行い、主体的に取り組むことができるように指導の徹底を図る。	
		【給食活動】 「マナーに気をつけて食事」の定着 〈結果〉 93% ・各月の給食に関する目標「めざしの日」の取組等を栄養教諭と連携して行っている。 ⇒進んで給食の準備等を行うことができている。また、好き嫌いせずに頑張って食べることができている。また、残食0の日も多い。	3.1 (3.5)	○93%よくできていますね。残食0もとても素晴らしいことだと思います。 ○取組の目標が、子どもたちの心と一致した結果だと考えられる。栄養教諭の努力の成果だと考えられる。 ○コロナの影響もあり、静かに食べる指導もあり、大変だったと思いますが、残食0の日も多く、おいしい給食を食べられる児童は幸せです。	◇ 栄養教諭と連携をし、給食に関する喜びや感謝等の気持ちが持てるように、今後も指導の工夫を図る。	
		総合所見	最後まで粘り強くあきらめない力(非認知能力)の向上へ向けた「きたほめ」の視点(目標設定、挑む活動、振り返る活動)での取組の徹底 保護者への啓発や依頼を含め、連携を強めながら協働実施			

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
郷土愛	ふるさとを愛する子ども	【地域に愛着をもつ児童の育成】 自分がすんでいる「かほ」がすき	2.5 (3.1)	<p>○重要なことと思います。コロナの影響を受けやすい中で、出来る限りの学習をしていただいたことが有難く思います。</p> <p>○子ども達にとって、思い出に残る貴重な体験であり、先生方の知恵と工夫に感嘆しています。</p> <p>○地域の「ひと・もの・こと」を生かした指導はとても良いことです。地域の協力は学校への信頼の厚さだと思います。</p> <p>○コロナ禍で地域の交流も難しい中、できる範囲での実践がされてよかった。</p> <p>・今年度は、ゲストティーチャーを招聘しての授業は難しいことであったが、ビデオ撮影などの工夫で実施とのこと。これからも、メディアと工夫で児童と地域の文化を紡いでいただきたい。</p>	<p>◇ 「ふるさと学習教材集」の活用と、教育課程に位置付け、学習活動の充実を図る。</p> <p>◇ 中学校との連携に努め、9 カ年を見通した学習・活動の構築を図る。</p>
		<p>〈結果〉 97%</p> <p>・本年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、校外学習はできる範囲で行い、GT にはビデオ撮影をお願いして学習を行った。</p> <p>⇒全学年で地域の「ひと・もの・こと」と取り入れた学習活動を、できる範囲で実践することができた。</p>			
		<p>総合所見 コロナ禍における様々な体験活動等の教育活動の形態の工夫 地域からも信頼される学校づくりを目指した、地域との交流の充実</p>			